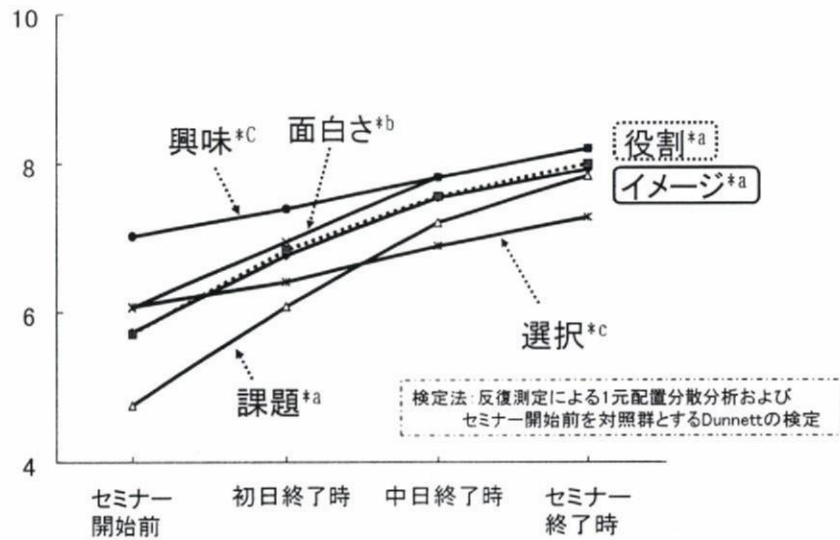


現在のあなたの気持ち・考えは、1以上10以下のあたりに位置しますか。該当する位置の・印に○をつけてください。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
セミナー開始時										
社会医学のイメージ	全く湧かない									十分に湧く
社会医学の役割	全く分からない									十分に分かる
社会医学の課題	全く分からない									十分に分かる
社会医学の面白さ	全く分からない									十分に分かる
社会医学の選択	全く関心がない									大いに関心がある
社会医学への興味	全くない									大いにある

セミナー終了後の全体集計表(各10点満点)

	セミナー開始前	初日終了時	中日終了時	セミナー終了時
イメージ	5.7	6.8	7.5	7.9
役割	5.7	6.8	7.6	8.0
課題	4.8	6.1	7.2	7.8
面白さ	6.1	6.9	7.8	8.2
選択	6.1	6.4	6.9	7.3
興味	7.0	7.4	7.8	8.2



解析結果

- *a: $p < 0.001$, すべての組み合わせに有意差あり
- *b: $p < 0.001$, セミナー開始前と中日終了時、およびセミナー開始前とセミナー終了時に有意差あり
- *c: $p < 0.001$, セミナー開始前とセミナー終了時に有意差あり

社会医学の役割と課題

第1班

松井聡, 中村枝美子, 武藤雄介,
越智真一, 小山泰, 川村幸代

セミナーを受ける前の 社会医学のイメージ

- ◆ 社会と関わって弱い立場の人を助ける医学
- ◆ ただ病気だけを見るのではなく、その人のバックグラウンドを理解して治療していくもの。
- ◆ 設備施設面から、裏方的に医療を助ける。
- ◆ 予防、研究がメイン
- ◆ バイアスを取り除いて研究し、数値化する。それを利用して医学に寄与する。(EB)
- ◆ 病院では患者が来なければ、患者と接することができないが、社会医学は自分から対象を決めて接することができる。

役割

- ◆ 感染症の拡大を止めることができる。
- ◆ 疾患(肺ガン等)の原因を突き止めることができる。
- ◆ 個人だけでなく社会全体を対象にして健康増進に勤める。
- ◆ 健康教育し、集団全体の健康意識を向上させ、疾病予防を促進する。
- ◆ 社会的弱者を守る。
- ◆ 医療と社会のパイプ役。
- ◆ 現場に行って実情を逐次細かく知り、詳細に対策を提案できる。

課題

- ◆ 圧力があるとエビデンスがあっても話が進まないこと
- ◆ 疫学統計の本当の意味がわかってやっているかどうか、疑問の場合もある。
- ◆ 情報提供は根拠をもって、様々なことに配慮して行わなければならない。
- ◆ 集団を対象にするため、個人が軽視される危険性を含んでいる。
- ◆ 人手不足
- ◆ 問題が発生する前に対応することが最も重要であるが、意識変容がまだ不完全なので、実現に至っていない。

提案

- ◆ 医学以外にも目を向けて向学心をもって早期から自学自習!
・経済学、社会学、疫学統計学、Political analysis 他
- ◆ 他分野(経済学、社会学等)との連携をより活発に行う。
- ◆ メディアでの広告宣伝を多用し、一次予防を強化する。その一方でフォロー体制も確立する。
- ◆ 簡略化したチェックシートを配布して、各家庭で自己診断してもらい、健康意識を向上させる。(結果報告で景品贈呈)

全体を通しての感想

- ◆ マイナーだがメジャーだと思った。
- ◆ 社会医学は世界規模だとわかった。
- ◆ 日本以外にも目を向けて行くことも必要だと思った。
- ◆ 社会医学だけじゃなくいろんな勉強をがんばろうと思った。
- ◆ 社会医学は予想以上に幅が広く、いろんなことができるとうわかった。
- ◆ 社会医学はおもしろい

社会医学の役割と課題

第2班

黒田真衣子 Jia Wenting

中村絵美 馬場啓介

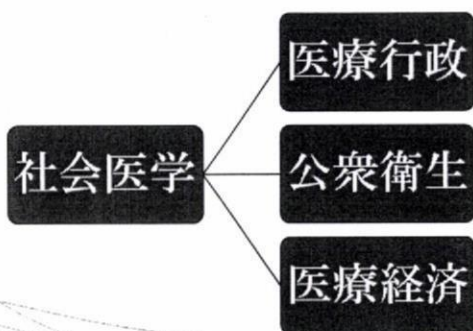
光井潤一郎 吉川真史

2007年8月26日(日)

社会医学の位置づけ



社会医学の構造



医療行政

- 個人情報の取り扱い
- メディアとの関わり
- 医療ミス情報収集と管理
- 啓発活動

公衆衛生

- 予防医学
- 産業医
- 疫学研究

医療経済

- 医療費
- 公害補償費
- 研究費

社会医学の役割と課題 第3班 ～4年生の視点から～

皆川 光・堀 大介
高野 英子・中村 菜美子
石井茉衣・清水 俊恵

医学のイメージ



社会医学の発展の背景

- 病気の治療が主な対象となっていた時代
- ↓
- 健康な生活を追求する時代
- ↓
- 近年の社会医学への要請の高まり

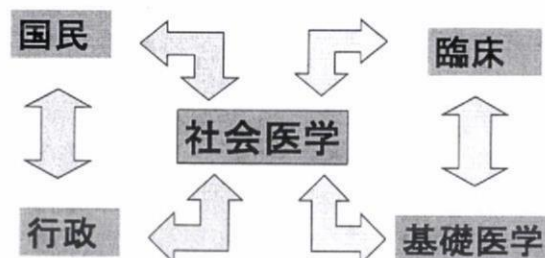
役割

- 疫学・統計学を用いた原因追究・社会への還元
- ・健康教育・衛生教育
- ・公害対策
- ・職業関連疾患への対応
- ・行政への働きかけ
- ・国際保健活動 など

課題

- 必要な連携がスムーズに行われているか？
- ・効果的な情報交換
- ・新たな健康被害への取り組み
- ・データの受け取り・分析結果の還元

接点としての社会医学



社会医学の役割と課題

第4班

永代祐司 上野暢一
松井智美 中野紗也香
高濱隆幸 猪瀬智子 上戸賢

はじめに

医学を構成する三要素

- 基礎医学 →細胞を対象とする
- 臨床医学 →個人を対象とする
- 社会医学 →社会を対象とする

社会医学の役割

社会全体としての健康水準の向上

社会医学の役割

医療費の抑制

予防医学、健康教育 (population strategy)
産業界の圧力 (根拠の無い情報の氾濫)

医療資源の効率利用

集約化、再配分
医師の偏在・医療費の配分・多寡な病院数

社会医学の役割

社会・医療の舵取り

明確な方向性を示す

疾病の社会的な背景を扱う

公害対策、産業保健、ライフスタイル
産業との折り合い

社会医学の課題と展望

- ・臨床医のPublic mindの育成
- ・『事件は現場でおきている!』
—臨床医と行政の温度差
- ・社会医学の重要性の過小評価
- ・社会共通資本をどうかすか?

社会医学を実践していくため
周りに広めていこう!!

第13回社会医学サマーセミナー 第5班

奈良県立医科大学5年	栗崎基
東京医科歯科大学5年	金子陽恵
金沢大学5年	石元玲央
旭川医科大学6年	中嶋駿介
防衛医科大学校6年	東野俊英
札幌医科大学6年	新田惇一
東京医科歯科大学大学院	清野薫子

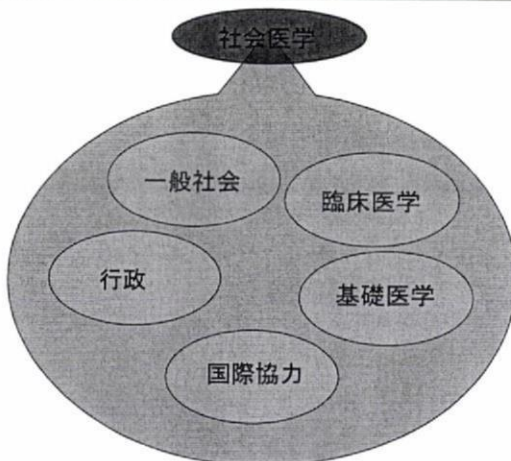
社会医学の役割

医療における各領域の橋渡し

||

細胞におけるマトリックス

社会医学



社会医学の現在の課題

- 認知されていない(イメージがわからない)
なぜか?? 医学部でもminorityらしい。。。
 - 成果が目に見えてわかりにくい
 - 貢献しても感謝されない
- 資金不足(研究費)・人材不足
- 臨床医は忙しすぎて目を向ける余裕がない?

今後の取り組み

- 臨床の現場にPublic health mindを!
- 功績をもっとアピールしよう!!
例えば...
政策を実現する根拠となったevidenceなど
- 学生が社会医学に触れる機会をもっと
作ろう!!!

社会医学サマーセミナー

社会医学ウインターセミナーもあつたらいいな。。。

最後に

全てを解決する手段の1つとして...

社会医学という名前を変えてしまえば?
公衆衛生? これもよくわからない。。。

⇒例えば...

「国民生活学(民生学)」「生活医学」「医療学」
「みんなの医学」「総合医学」「幸福の医学」
「楽しい医学」「美しい医学」「医学くん」...

第6班 メンバー

- 林 久雄(佐賀大学)
- 森下 裕史(近畿大学)
- 朝倉 大貴(金沢大学)
- 山崎 政美(金沢大学)
- 川井 えりか(旭川医科大学)
- 小林 沙織(千葉大学)
- 白川 康一(大阪市立大学大学院)
- 平澤 卓(山梨大学)

社会医学とは

- みんなが健康でいられるように
- みんなのQOLが良くなるように

する学問だと考えました。

役割

色々な手段を使って社会に利益を還元する

- 健康の維持・増進
- 社会的不平等の是正(地域・職業など)
- 社会への啓蒙活動

現在の社会医学の課題

1. 専門家との連携が足りない
臨床医学との連携
医学部教育にもっと力を入れるべき!!!
2. 一般市民との相互理解が足りていない
研究成果を社会に還元をすること
3. 人材の不足

問題点

- 行き過ぎは危険!
情報統制になりかねないか?
- 利害が一致するとは限らない。
- 社会医学者が対処すべき問題か?
- 情報提供におけるバイアス(行政、企業)
- 情報を国民が適切に理解・判断できるのか

提案

- 情報の出し方を工夫する
- 社会医学へのアクセスを増やす工夫をする
- 研究成果を提案して、積極的に啓蒙・教育に力を入れることが大切

匿名です。今後の社会医学サマーセミナーに活用させていただきます。

(年生)

現在のあなたの気持ち・考えは、1以上10以下のどのあたりに位置しますか。該当する位置の・印に○をつけてください。

		←	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	→
セミナー開始時													
社会医学のイメージ	全く湧かない		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に湧く
社会医学の役割	全く分からない		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に分かる
社会医学の課題	全く分からない		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に分かる
社会医学の面白さ	全く分からない		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に分かる
社会医学の選択	全く関心がない		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	大いに関心がある
社会医学への興味	全くない		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	大いにある

		←	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	→
初日終了時点													
社会医学のイメージ	全く湧かない		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に湧く
社会医学の役割	全く分からない		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に分かる
社会医学の課題	全く分からない		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に分かる
社会医学の面白さ	全く分からない		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に分かる
社会医学の選択	全く関心がない		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	大いに関心がある
社会医学への興味	全くない		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	大いにある

自由記入欄

		←	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	→
中日終了時点													
社会医学のイメージ	全く湧かない		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に湧く
社会医学の役割	全く分からない		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に分かる
社会医学の課題	全く分からない		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に分かる
社会医学の面白さ	全く分からない		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に分かる
社会医学の選択	全く関心がない		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	大いに関心がある
社会医学への興味	全くない		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	大いにある

自由記入欄

匿名です。今後の社会医学サマーセミナーに活用させていただきます。

(年生)

← 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 →

最終日終了時点

社会医学のイメージ	全く湧かない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に湧く
社会医学の役割	全く分からない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に分かる
社会医学の課題	全く分からない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に分かる
社会医学の面白さ	全く分からない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に分かる
社会医学の選択	全く関心がない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	大いに関心がある
社会医学への興味	全くない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	大いにある

(1)特別講義・医系技官への誘い・私の社会医学のうち、印象に残った話を2つあげて、なぜ印象に残ったのか教えてください。

(2)あなたにとって、今回の社会医学サマーセミナーは有意義でしたか。あれば、どのような点であったか教えてください。

(3)今回の社会医学サマーセミナーで改善すべき点があれば教えてください。

(4)その他、自由記入

セミナーはあなたに有意義でしたか(学年順)

非常に有意義だった。討論のメンバーに上級生が多く、夜中まで深い議論ができ、大変よかった。江副先生の私の社会医学 C は、医系技官を目指す上で、大変参考になる話ばかりで、お聞きできてよかった。留学したいと考えるようになった。(6年生)

まず、社会医学という学問の実像が見えてきたことが、とても有意義でした。臨床医になりたい私は、視点がやはり臨床に限定されがちですが、社会医学という分野の守備範囲の広さ、様々な他分野との連携の可能性をもった、とても大きな実践学問であることを知りました。それ故の重要性、必要性に気づけたことが、とても価値のある点でした。(6年生)

有意義でした。私は、労働衛生や産業医学に興味があり、将来どのように医師として仕事をしていくのか、考えたいと思い参加しました。実際に医系技官を目指す学生がたくさんいたり、社会医学に興味がある人の集まりということで、普段感じていることや考えることをディスカッションしながら、自分自身の特徴や自分の考えを見直すことができたように思います。専門家の方や厚労省の方のお話がいろいろと聞けたのもよかったです。なにより、日本の中にこれだけ興味がある学生がいることを知ったことは、将来一緒に仕事をするかもしれない人に出会えたことがよかったです。(6年生)

今まで考える機会の少なかった社会医学という概念について、今回のセミナーを通して自分なりにイメージができるようになりました。同時に、今まで自分がいかに社会医学について無知であったのかを、自覚することができました。私は、臨床医学の方面に進もうと考えていましたが、社会医学の考え方やおもしろさを知ったことで、将来の進路選択の幅が広がったように思います。また、他大学の学生と交流ができたことを、非常に有意義であったと思います。(6年生)

社会医学がものすごく広大なもので、マイナーな範囲であるというイメージを遥かに驚愕するもので、また社会におけるポジションという意識もわかって世界観が変わった。(6年生)

有意義でした。現場で働いている先生方のレクチャーの後の食事の際に、フランクに意思を交らわせることができ嬉しかったです。社会医学な見方をこれから忘れないようにしたいと思いました。(6年生)

大変有意義でした。大学において、社会医学に関する話題は、講座で研究されているトピックのみであり、社会医学とはある程度限定された範囲の学問であるという認識であったが、全国では多岐にわたる研究をされている方が多勢いらっしゃり、社会医学のすその広さ、ふところの広さを実感することができました。また、志や興味を同じくする他大学の学生と交流する機会を得られたこと。(6年生)

将来的に、行政関係の仕事をする可能性があるから、今回得たノウハウを活かしていきたい。(6年生)

とても有意義でした。今まで、大学の講義等でなかなかイメージしづらかった社会医学の分野について幅広くいろいろな視点から考えることができ、社会医学に対するイメージおよび印象が大きく変わりました。また、グループディスカッションを通じて、自分と同じように社会医学に興味のある人達と激しく議論を交わすことによって、「接点としての社会医学を楽しむ」というテーマの意味が少しわかったような気がします。(6年生)

自分にとって曖昧であった社会医学が、セミナーやグループ討論を通して、深くできるようになりました。(5年生)

将来の進路を具体的にイメージできた点、これから

の学生生活をどのように過ごしていけばよいのかが、分かった点で有意義でした。(5年生)

非常に有意義でした。社会医学に興味のある学生達が集まって、たくさんのお話がありました。また、社会医学についての理解も深まりました。社会医学の何が分からないのかということ(先生達がセミナーで語られていたことは「各論」で「総論」が見えていなかったからよく分からなかったのかな?と思いました)が、知れた気がします。(5年生)

大変有意義でした。他大学との交流に時間を費やすことができ、普段なかなかできない社会医学についての議論を経験できたことは貴重でした。(5年生)

普段、社会医学に興味がある仲間と話ができる機会は少ないので、今回のセミナーで同じ興味関心を持つ人と話ができ、有意義だった。また、実際に社会医学を仕事としてやっている先輩方のお話を聞くことができ、将来の進路として具体的なイメージがわいた。(5年生)

有意義でした。各大学の教室の先生方が多方面にわたって社会に貢献する研究をされているということを知ることができました。社会医学のイメージ、役割について具体的に学ぶ機会を得ることができて良かったです。また、2名の医系技官の先生方からお話を聞かせていただき、政治と関わっていく難しさや先生方の意気込みを感じさせていただきました。また、社会医学に関心を持つ同じ学生の方々と交流する機会を持つことができ、とても良い刺激となりました。自分自身も勉強不足であり、もっと社会医学について学び、学生の方々と交流させていただきたいという意欲をかきたてられました。(5年生)

6年生の医学教育への提言を聞いたことが、非常に有意義だった。また、多面的な社会医学をいろいろな立場の方から話されることで、社会医学への理解が深まった。(5年生)

2度目の参加は、1回目とはまた異なった収穫がありました。例えば、講師の先生方のお話からだけでなく、周囲の学生が社会医学にどうして興味を持ち、どの分野に興味があり、将来の進路をどうするのか、ということに関心を持って臨めました。(5年生)

社会医学に興味のある学生の多さに、大変驚きました(4年生)

私の通う大学で同じ学年の中では、他に「社会医学」に関心を持つ仲間は少なく、寂しく思っていました。今回のサマーセミナーでは、多くの学生の方々が、「社会医学」に興味をもち、問題意識をもっているということを知り、交流でき、とても嬉しく思いました。(4年生)

有意義だった。全国の医学生と討論して刺激を受けることができた。(4年生)

色々な先生の話が聞けた事が良かったと思います。将来何か思う事があった時には、まず公衆衛生の先生に相談しようと思いました。何か有効なアドバイスが必ず得られる安心感を感じました。(4年生)

現場で働いている人の話を聞いたこと。(4年生)

普段、他大学の学生と交流を持たない自分にとって、今回のセミナーは視野を広げるよい機会になりました。社会医学に興味がある学生同士で語り合うのは面白かったし、全国には、色々な学生がいるんだなと感じました。(4年生)

有意義でした。特別講義を聞かせていただき、医療をめぐる様々な社会問題を知り、これらの問題に関する思考のきっかけになりました。(3年生)

有意義でした。やはり、通常では大学の講義以外で公衆衛生、衛生学の話聞くことはできません。そのため、このような機会が多くのお話を聞いたこと

で、社会医学が様々な点に接点を持っていることがわかりました。また、熱心な他大学の学生と、話したり意見を聞いている中で、自分ももっと勉強していろいろな考えを持てるようになりたいと思いました。モチベーションがあがりました。(3年生)

有意義だった。社会医学が追求する問題が明らかになったと思う。自分の将来考えたい問題も少しだけ明白になった。先生方と直接お話をさせて頂くことができて楽しかった。(3年生)

公衆衛生学に興味のある人たちと話ができたこと。(3年生)

有意義でした。「社会医学って何だろう」と思って、このセミナーに参加したのですが、グループ発表、討論等、先生方以外の意見を、真剣にきける場だったので。<先生の話も、もっと(高学年になれば分かることもでてくるだろうけど、、、)深く理解できれば、面白かっただろうけれど、今回は知識不足もあり、それが残念なところでした。>(2年生)

社会医学という一見分かりにくいものを、様々な講演等により非常に分かりやすく、かつ興味深く知ることができ、今後学んでいく上で、いい足がかりになったと思いました。(2年生)

有意義だった。社会医学とは何か?そこの何に特に興味があるのかを考えるきっかけになった。(2年生)

まだ、勉強しておらず、理解できない単語も多々あったが、モチベーションが上がったので、大変有意義でした。(1年生)

非常に有意義でした。社会医学には、全く無知であったが、その中でも多様な視点からの話を聞くことができ、漠然とした社会医学のイメージが輪郭だけではあるものの、幾分か明らかになったと感じた。さらに、グループ討論とそれを通じた発表により、

新たな視点を得られた上、自分の意見を整理するのが役立った。(1年生)

社会医学について、興味を持っている人が、これだけいるということがわかったこと。幅広い分野の専門家の先生から直接簡略ながら聞くことができ、自分が将来どんなことをしてみたいか、自分にはどんな選択肢があるのかをある程度具体的に知ることができたこと。(1年生)

多様な医師像を知ることができた。多様な医学生を知ることができた。多様な症例を知ることができた。(1年生)

社会医学の分野を幅広く知る機会を得ることができ、とても有意義なセミナーだったと思います。(修士)

疫学分野の理解が、より深まったように思った。(博士2年生)

全国の医学生と真剣に話し合う機会があり、皆がどんな考えを持っているのか、今の医学教育では、こういう思想が生まれるのか、など色々と刺激になりました。(博士4年生)

印象に残った講演とその理由(学年順)

私の社会医学 B (河野先生) HF の話で産業医というのは非常に重要だと初めて実感した。河野先生に授業に来ていただきたいし、先生の研究室に魅力を感じた。セミナーVI (廣田先生) インフルエンザワクチンについて、ずっと疑問だったのが、解決できた。(6年生)

職業性肝ガンの話、社会医学的アプローチが、どんな立場の人も可能であることがわかり、臨床に進んでも社会医学の考え方を生かしていく機会をうかがっていようと思いました。インフルエンザワクチンの話、社会医学は大切であるというのみならず、例えば疫学的視点の欠如が、社会に実害として現れてくるという“必須性”に気づかされました。(6年生)

セミナーIII 国際協力で共有すべき基本的認識というのは、社会医学の他の分野でも非常に重要だと思ったから(尊重、コミュニケーション、立場 etc)セミナーVI 冷静に数値や現象と向き合うことが大事なんだと実感できた。(6年生)

「私の社会医学」B 引用されていた事例も具体的にわかりやすく興味を引くものであり、産業医の重要性について改めて考えさせられました。感染症と社会医学 日本の社会と医療について考えさせられました。(6年生)

若手医系技官の先生の話において、WHO の総会に行った話や専門的な学位がアメリカに行かないと取れないという話が興味深かった。明日香村教育委員会の北村先生の日本の歴史の裏話みたいなのが非常に興味深かった。(6年生)

神ノ田先生の「医系技官のツール」という話で医系技官へのイメージがよくなってきた気がします。また、仕事の軽いグチを聞いて親近感がわきました。江副先生の診療報酬に関する話を聞いて、若くして日本の医療に大きく影響を与えている姿にカッコ良さを

感じました。(6年生)

厚生労働省行政と医系技官の役割 話の仕方が大変上手であり、内容も実際に拘わっている方でなければ、できないような裏話等についてお話されており、興味深かった。感染症と社会医学 社会医学の視点から常識とされているような事柄をとらえ直すことによって社会全体にとって大きな貢献をすることができた事例を知ることができたので。((6年生)

「私の社会医学」B 化学熱傷、産業保健について、具体的な話を聴けて良かった。セミナーVI、インフルエンザワクチンの公衆衛生において、興味深い話を聴けて良かった。(6年生)

ガン登録について 臨床医学と関連づけてお話をさせていただき、社会医学の視点からみた問題点、および臨床医学の視点からみた問題点があり、それぞれ独立しているわけではなく、互いに関連づけて考える必要があると思いました。古都奈良の都市問題 都の移転に関しては公衆衛生も大きな影響を与えていると感じました。また、文字という新しく入ってきた文化を伝えることの難しさも感じました。(6年生)

神ノ田先生の話 医療政策の中心にいる方の生の声は、新聞や本で知ったものより重く心に響きました。江副先生の話 医系技官を目指す自分にとって道標となる話はとても興味深かったです。(5年生)

「私の社会医学 A」「私の社会医学 B」学生時代どのようなきっかけで社会医学に進んだのか、どのような点についてやりがいを感じているのかを、具体的に伺うことができて、とても参考になりました。また、疫学のおもしろさ、その重要性に気付くことができました。社会医学に進んだ場合の進路を具体的に考えられるようになったので、この2つのお話が

印象に残っています。(5年生)

私の社会医学 B パワフルでした。産業医の役割を初めて知れる機会だったと思います。セミナーVI 感染症と社会医学 疫学の考え方というか、知識の応用の仕方が感染症を通じて知れた。(5年生)

江副氏の提示された話が一番印象に残りました。社会医学のみならず、医学に生きる者すべてが持つべき考えであると思いました。北村氏の話も印象に残りました。普段聞くことができない世界の人の話は非常に刺激になります。(5年生)

「働く人々の健康と病気をみつめて」河野公一先生労働者が、国内でも海外でも劣悪な環境で作業を強いられていること、重篤な労働災害の悲惨さと、それを予防医学がどう防いでいくかについてお話くださって、予防医学の重要性を強く感じる事ができた。「なぜガン医療にガン登録制度が必要か」森満先生 臨床と社会医学の関わりを感じる事ができるお話で、興味深かった。(5年生)

2 つに絞りきれないのですが、先生方の実践されている内容に感銘を受け興味深く聞かせていただきました。山縣先生のご講演から、住民を対象にした息の長い研究から実際に住民の方々に研究成果を還元していくことができるということを感じました(住民に始まり住民に終わる)。また、Evidence を出して具体的に社会を動かすためのアプローチをしていく重要性を学ばせていただきました。また、江副先生のご講演では、先生がリーダーシップについて話して下さったことが印象的でした。裏方となり、正しいかじ取りをして、促進役となっていく存在の重要性を感じました。(5年生)

徳留先生の話全てで、社会医学に関った人生の面白さを、伝えてくださったことがとても良かった。そして、医系技官の話の中で、行政の中でエビデンスに基いた厚生行政を行おうとしても、できない背景があることを知り、新鮮に感じた。(5年生)

セミナーV 「寓者は経験には学び、賢者は歴史に学ぶ」祖先の失敗に学ぶところは大きいと思いました。セミナーIII political technical ethical analysis 政策実現の為の 3 要素が、簡潔にまとまっている。(5年生)

医系技官の仕事は国を支えることができるという事に驚きました。私自身は、このセミナーに参加するまで医系技官の存在を知らなかったので、勉強になりました。河野先生の現場の危機管理が十分でないという話は印象に残りました。(4年生)

竹下先生の「遺伝子研究と社会医学」「努力しても強くないには、努力が足りないわけではなく、遺伝子によるものだということがわかり、すっきりした」この表現に表れているように、生活に密着し、とても身近なテーマで研究をなさっていることに興味をもちました。山縣先生の「健康弱者を支える科学」母子保健活動にも力を入れておられ、地域全体を守っていこうという姿勢に強く共感しました。(4年生)

医系技官の方のお話は、すごく印象に残った。今まで、そんな仕事があるのも知らなかったし、大きな仕事だということが分かった。(4年生)

神ノ田先生が、とても大変な事をさらりと話されていたのが、印象的でした。とても超人的で、ある意味畏怖さえ覚えました。(4年生)

HF の話、時間差で症状が出る、ほんのちょっとで命に関わるなど、厄介なものがあるのだなあと。社会医学はテロリズムの対抗にもなるのだとわかり、力強く感じた。他は、よく覚えてないです。(4年生)

「日本の社会医学を海外で生かす」(高野先生)今までは、国内のことだけしか考えることができなかったが、今回初めて海外での活動に目を向けることができた。厚生労働省医系技官が語る(江副先生)若

手の先生だったので、話が身近に感じられた。留学のお話興味深かったです。(4年生)

セミナーⅠの② がん登録の実施現状と必要性を知ることができ、今後の方針などを自分なりに考えてみました。私の社会医学B 「現場に出る」という話が印象でした。これが、まさに社会医学の研究にとって、もっとも大事な部分だと思います。(3年生)

医系技官の先生、お二人のお話は、ふだん学校では聞くことができず、非常に印象に残りました。行政の中で、どのような役割をどのような手段で担っていくのかということ、初めて知りました。いい面、悪い面(大変な面)、両方を理解することができました。1対1という臨床と比較して、1対多数の行政の働きの意義がよくわかり、おもしろさを感じました。廣田先生のお話は、いかに疫学が大切であるかがわかりました。おもしろかったです。(3年生)

がん登録(森)日本では、未だがん登録制度が成立しないが、逆にそのことから(日本における)社会医学が取組むべき現実的な課題についての(目的達成のための)手段の構築の必要性和、それを成すための理屈を考えたいと思われた。私の社会医学(江副) 世代が近いので、具体的に有用な話が聞けた。(3年生)

医系技官の方のお話は、二つともおもしろかったです。医系技官という職業を知らなかったというものがありますが、医療の制度全体を変えられるチャンスのある職業なので。私の社会医学は、河野先生のお話が印象深かった。確かに、社会医学は、社会的に関わりがあるけれど、それを最も感じられたので。(2年生)

メディアとの関わりの中で、発表や対処に気を遣うということ。保険点数改訂に際して、患者団体や医師会の意見を参考にして吟味するという。国民に大きな影響を与える行政であるからこそ、慎重かつ大胆な決断を下さねばならないという、責任感の

重大さを医系技官の方の話から、ひしひしと感じられた。(1年生)

神ノ田先生の話 医系技官の仕事が全く分かっていなかったで、お話を聞いて少しイメージがわかりました。竹下先生の話 アルコール代謝の人種による違いに興味があったため。(3年生)

セミナーⅥ インフルエンザの話について、自分自身、メディアで得ていた知識というのは、実際には誤りであったというのは、衝撃でした。逆に、そんな状況下でも、しっかりとしたエビデンスに基づいて検証し、はたらきかけていく社会医学の重要さを強く感じました。医系技官については知りませんでしたが、今回お話を聞いて、こんな道もあるのだなと思いました。医療のあり方を変えていくのは、実に様々な方法があるのだと分かり視野が広がったと思います。(2年生)

「私の社会医学」A 関心をもったきっかけから、公衆衛生、社会医学の考えがわかりやすかった。「私の社会医学」C 参加者に近い世代の先輩が、今何を考え、どんな仕事をしているかということが、励みになった。(2年生)

「私の社会医学」A 予防医学に興味深かったから。「私の社会医学」C 医系技官の方の留学等の経験や課題を聞くことができたから。(1年生)

河野先生のお話の中で、「必ず現場に行き、自分の目で確認すること」と「予防が治療よりも重要」というのがある。自分が何をしたいと医学部に入ったかを思い出した。廣田先生のお話で、疫学を医師が正しく理解していなければならないということがあり、自分たちの不勉強や苦手意識によって、まちがった知識を国民全体に与えることになりかねないので、自分がきちんと勉強しなければならないと思った。(1年生)

高野先生の話 日本の人々が海外でも活躍している

から。河野先生の話 各種薬品によって扱い方が異なるのは大変だから。(1年生)

高野先生「日本の社会医学を海外に生かす」数値のみ、古典的な疫学ではなく、海外をフィールドとして実践的な疫学を研究されている点について大変印象に残りました。北村先生「古代奈良の都の都市問題」今回、実施された社会医学セミナーの会場となった奈良、特に飛鳥地方の古代史や人々の生活様式について触れる機会を得たことが大変印象に残りました。(修士)

河野先生一働く人々の健康と病気をみつめて 実際

に職場行って見聞したことを中心まとめられてあり、非常に興味深く思った。(博士2年生)

Evidence based Public Health というが、そこには、それを実現するには、3つの analysis が必要 (by マイケルライス) という話が、まさに！と思う所であり、勉強になりました。労働衛生の現場例を色々見せていただき、日本でも、やはりまだまだ法の目をくぐってたくさん危険な状態が現実にたくさんあること。(博士4年生)

セミナーの改善点(学年順)

初日に一言だけでも自己紹介があれば、よかったですと思います。大学、興味分野だけでも知ることができれば知り合いを作りやすいと思いました。(6年生)

私たちのグループに、医学部生(臨床医にならないという意味)ではない院生の方がいらっしやっただので、臨床医学以外の視点を知ることができ、とても視野が広がりました。医学部の中の“社会医学”として話し合う機会も貴重ですが、他分野からアプローチしている方とも何かこのような機会ができればと思います。(6年生)

ディスカッションの時間があらかじめもう少し取れるようなスケジュールだと思いました。質疑応答の時間が多めなのは、よいと思います。(先生自身の講演で得るものも大きいですが、質問でさらに先生が伝えたいことに迫れているように感じました。)(6年生)

講演していただいた先生方との交流の機会をもっと作って頂ければ嬉しいです。スケジュールに余裕がないので、その点を改善していただければ、学生が自分たちで考え、議論する時間や交流の時間が増えるのではないかと感じました。(6年生)

年に2回くらい行って、アピールしていてもいいのではないかと。(6年生)

もう少し、連絡事項を早めに伝えてほしかったです。(6年生)

参加学生や教員、全員で交流する機会が少なかったと思います。(6年生)

初日のスケジュールがやや過密であったために、講師の先生および学生も疲れている印象を受けました。また、グループディスカッションの時間をもっと確保してもよいのではないかと感じました。せっかく

の素晴らしいテーマで、社会医学に興味のある学生同士のディスカッションなので、時間がもっとあればよりよい話し合いができることと思います。(6年生)

初日のスケジュールをもう少しゆるめて下さると助かります。グループ討論の時間をもう少し確保してほしいです。講義もおもしろかったです。学生同士のディスカッションをもっと盛んにする場があればよかったです。(5年生)

2日目の午前中までセミナー、講義を聞くことができましたので、ややIce breakがあったらよかったですのかなと思います。また、講演される先生以外にも、各大学の公衆衛生の先生が、都合の良い時間だけでも出入りして下さるとうれしかったです。(5年生)

臨床医の立場で社会医学を実践する家庭医のお話も聞きたかった。Public mindをもった臨床医の姿を見せてほしい。(5年生)

もともと、3日目のdiscussion時間を長くしておくべきではないかと思いました。(5年生)

もう少し学生間の交流時間があればいいなと思いました。(4年生)

2日目のような地域交流にふれたり、他の方々との交流の時間がもう少しあるとより良かったと思います。(4年生)

日程がきつきつで、少し体力的にきつかった。(4年生)

最初の集合場所の社会教育センターが田舎で、場所がわかりにくかった。初めから市内集合にすればよかったのでは。開催場所は奈良で良かった。北海道や東北地方、九州地方なら行く気にならなかったと

思う。(4年生)

スケジュールがタイト。でも、その分、充実感がありました。このような感じでいいと思いました。(4年生)

先生方の紹介文みたいなものが、あらかじめ配布資料に載せたら、いいかなと思います。(3年生)

グループ討論の時間が発表にむけてもう少し時間をとっていただけると嬉しいです。(3年生)

GWに漠然とした題を考えるよりも、先生方の発表について、班ごとに議論して先生に質問するような形にしても良いと思った。(3年生)

講演中に、自由に手をあげて発言できるというような講義も、1つくらいあってもいいかもしれないです。(2年生)

グループ討論の時間が少なく、もう少し増やしていただければよかった。(1年生)

案内が簡素すぎる気がします。ex、バスの時間が間違っている。コンピューターの用意については、事前にメンバーとの連絡ができる訳でないので、何とか対策してもらいたい。(3年生)

すごくハードスケジュールでした。その分、内容も濃くて良かったです。(2年生)

社会医学のイメージや固定概念が、まだ定着していない。医学部に入りたての学生もいるなか、講演のトピックスのえらび方、なぜその話をするのかということが、重要だと思った。(2年生)

1日目よりも2日目に、懇親会があると良かった。(1年生)

今回は、研究において対象やテーマの決定について

どんな事を意識して行うのか具体的に知る事が、(私は)できなかった。(1年生)

初日が大変でした。一部、二日目、三日目にまわしては？

セミナーという都合上、どうしても話を聴くことが中心になってしまったように思う。学生が主体となって考えたり、意見を出し合う、チュートリアル(先生も参加して与えられた課題について考えるような)形式のものを、途中で入れてくれたほうが、おもしろいし、ずっと話だけをきくよりも、気分転換になりおもしろいのではないかと思った。(博士課程2年生)

セミナーを終えてー参加学生からのコメントー(順不同)

実際に活躍されている先生方とお話させていただくことや先生方の特別講義を聴くことにより啓発された。学生発表ではテーマが社会医学の役割と課題についての考察だったこともあり、課題の豊富さというか役割を十全に遂行できていないという反省を表明するものが多かった。課題についての自覚があまりに強く、翻って社会医学は何をしなくても良いのかについての考察がないと思った。煩雑な定義とそれにも拘らずきちんと成立している社会医学という学問分野についてどう捉えることができるのか先輩方のご意見を伺いたかった。ちなみにこの観点についてはある班の発表や学生の質問をきっかけに最終討論において先生方が社会医学教室の名称を巡って自説を述べられ、自分自身も考えるヒントをいただいた。質疑応答に立つチャンスを失ったということでもあるので少し残念だったが。

意外に友人ができたこともあり参加して良かったと心から思っている。(3年生)

この三日間で社会医学側の立場から色々なことを考える体験をさせていただき、毎日行なったグループ討論でその重要性、臨床側とは異なった意見を出し合い、最終日にはその発表を行いました。初日には臨床から見た一基礎としての意見ばかりだったのですが、ざっくばらんな先生や院生たちとのコミュニケーションによって社会医学者のあるべき位置、ポジション、情報の扱いの難しさを学んでいき、最終日にはなるべくその立場を尊重しながら意見を出し合い原稿をまとめられるようになったと思います。(6年生)

社会医学セミナーに参加させていただき充実した3日間を過ごすことができました。大学や学年をこえ社会医学に興味をもつ多くの学生と知り合うことができました。代表世話人の車谷先生をはじめ講師陣の先生方には社会医学の仕組みや、現在かかえている課題について興味深いお話を聞かせていただきましたこと、この場をかりてお礼申し上げます。多くの学生や講師陣の先生方と意見を交換することで自らの社会医学に対する考え方を顧みる良い機会になりました。自分が通う大学に閉じこもってはい経験することができない貴重な体験をこれからの勉強に活かしていきたいと思います。(3年生)

会場には全国各地から医学生達が集まり、著明な公衆衛生学と医系技官の先生方が集まっていました。先生方のセミナーは内容が充実し、また時折ジョークが混ぜられていたので、わくわくしながら聞いていました。セミナー後の食事の間に学校の異なる同級生や後輩といろいろなことで語らうことができました。みなさんには様々な志があることが分かり、とても刺激を受けました。先生方とも非常にフランクに語らうことができ、非常に楽しい思い出になりました。私は今回の交流を通して予防医学の重要性をより実感しました。(6年生)

社会医学セミナーは2泊3日でしたが、たくさんの講演とディスカッションがあり、全国から集まった学生や先生方と、普段考えていること、感じていることを深めることができました。私は社会医学に興味はありますが、何をやっていくのかはまだわからない、でも実際に社会医学を専門としている方々の生の声は聞いてみたい、と思い参加しました。セミナーを終えて、「自分の将来」の観点から一番印象的だったのは、懇親会でお話をしたある先生の「責任をもって仕事をしていけば、必ず将来は開ける」というものです。やってみようと思うことがたくさんあって、どうしたらそれに近づいていけるのか考えると不安になることもあります。でも、どの分野であれ責任をもって仕事をしていけば、道は開けていくし、すべてのことがつながりをもってくるのではないかと思います。自然豊かな奈良の地で、将来共に仕事をするようになるかもしれな

い多くの人に出会えたことは、貴重な経験でした。参加して良かったです。ありがとうございました。（6年生）

社会医学が、医療・社会において重要な役割を担っていることを具体的に学ぶことができ、とても有意義でした。社会医学の幅広さ、奥深さを感じました。個人的には「Evidence based Public Health を育てる」という内容が興味深かったです。大衆・社会を対象にする社会医学では、実践のため、Evidence に効力があると感じました。また、接点としての社会医学においては、あらゆる場面において効果的なコミュニケーションが重要だと感じさせられました。今回のセミナーで、多くの先生方、学生の皆様と知り合いお話しする機会を得たことも貴重でした。今後、まず自らの Public Mind を磨いていき、何らかの形で社会医学の発展に寄与していきたいと思っています。（5年生）

「社会医学」という言葉の意味もほとんどわからないまま参加したセミナーでした。確かに講義を受けた後でも理解できないこと、何が重要かすらわからないものもあります。けれどもこのセミナーでしか得られなかったものが、非常に大きいということです。公衆衛生の分野で私は完璧な初心者です。しかし討論するときの参加者の広い視点、何よりも熱い思いを感じて多くの刺激を受けました。「接点としての社会医学」についてですが、3日間これについて考えていました。なんの接点なのか、……。初心者の私にとっては、「医学の接点としての社会医学」でした。もしくは「医者としての社会医学」。まだ医学の勉強も始まったばかりで「医学って何？」と感じていたものが、このセミナーで少し分かったような気がするのと、公衆衛生の道に進まずとも、すべての医者は社会全体を見た医療をする心がけをするべきだな、と感じたことからであります。（2年生）

私は今回と2年前の社会医学サマーセミナーに参加させて頂き、他では得られない貴重な経験をさせて頂きました。何より驚きなのは参加者全員のモチベーションが非常に高いことであり、なおかつ楽しみながら時間を忘れ、夜更けまでディスカッションを行ったことは一生の思い出です。私は卒後の航空自衛隊への任官が決定しており、初期臨床研修終了後、部隊勤務に就くことになる予定ですが、自衛官の健康で最も重要な問題は自殺と代謝症候群です。両者とも社会医学的な考察や手法が不可欠であり、現場、行政のいずれの立場でも学生時のセミナーの経験を必ず役立てられるものと確信します。（6年生）

今回の社会医学セミナーに参加したおかげで、大変有意義な夏休みを過ごすことができましたと思います。社会経済を学んだ経験があったためか、社会医学にすごく興味を持っていました。しかし、本当の社会医学の研究範囲・課題などの具体的なものがよく分からないままでした。様々な課題を取り上げた特別講義を通じてだいぶ社会医学・公衆衛生に対するイメージをつかむことができました。そして、今回のセミナーを機に、自分なりに社会集団の利益に関わるような医療問題を探し出したり、その問題を起こす要因や解決案を考えたりするようになりました。来年のセミナーにもぜひ参加したいと思っています。（3年生）

同じ興味関心を持つ仲間実際に会って議論を交わすことや、この分野で日々研究をされている先生方、さらに行政で実際に仕事をされている技官の方々が一堂に会する機会というのはこのセミナー以外に無く、全ての方々から大いに刺激を受けた3日間でした。「社会医学に興味がある」という共通点が始めからはっきりしているためか、初対面の学生ともすぐにうちとけ、社会医学のことはもちろん、自分の核心に関わるようなことを心を開いて話すことができました。また、先生方や技官の方々がどのような社会的意識を持っ